第２回「なつかしい未来」商品アイディア・ワークショップ

【開催概要】

〇日時：2012 年２月２９日（水）15 時～18 時
〇場所：竹駒コミュニティセンター（岩手県陸前高田市竹駒町字館４４）
〇目的：

- ✓ 前回ＷＳででた４アイデアについて、共有するとともに、そのアイデアを掘り下げる。
- ✓ そのアイデアがどんな未来をもたらすのかをＷＳを通じて考えることで、“なつかしい未来”のコンセプトとなる要素を収集する。

〇参加者：陸前高田の人々11 名　陸前高田市外の人々15 名　合計２６名
■陸前高田の人々；なつかしい未来創造株式会社メンバー、林業者、製材業者、新聞記者、家具店社員、デザイン・印刷事業者等
■陸前高田市外の人々；明治学院大学学生・ボランティアコーディネーター、SBN メンバー（池内タオル池内氏、電通阿部氏、ISF ネット吉田氏、高橋氏、森のエネルギー研究所菅野氏、町野）
〇ファシリテーター：青木将幸氏
〇ワークショップ設計：西村佳哲氏
〇コーディネーター：服部直子、中野里美、桑原憂貴
役割：本ワークショップの企画・運営サポートおよびＳＢＮ関係者や地元事業者等の参加者との事前・事後連絡調整

【議事・実施内容レポート】

０．前回の振り返り（青木氏）

- ✓ 前回２月１３日の第１回ＷＳはアイデア出しと仲間集めを行った。２回目のＷＳの目的は、実現に向けた意見交換を実施すること。
- ✓ 7月 14 日－15 日のソーシャル・アントレプレナー・ギャザリングで何らか商品やサービスをお披露目するというスケジュールで進めていく。
- ✓ （意見交換）グループ別に進捗報告とその事業がもたらす未来について意見交換。

１．図書館を軸にしたコミュニティスペース「しごとを生みだす図書館」

（どんな図書館か？）

- ✓ 大人と子どもが学べる空間にしたい
- ✓ 仕事を生みだす図書館というコンセプトはどうか。
- ✓ 陸前高田の歴史を楽しく学べる
- ✓ 「おばあちゃんの知恵」の紹介をする機能を持つ。
- ✓ 囲炉裏のある図書館でお年寄りの話を子どもが聞ける。
- ✓ 旅行者が必ず立ち寄る場所にする、ここを目的に旅行者が訪れる
- ✓ コミュニティバスが止まる
- ✓ カフェやバーを併設する
- ✓ 地元木材を活用した茅葺屋根
- ✓ おばあちゃんが小学生に勉強を教える空間にしたい。
- ✓ 陸前高田の中の人と外の人の出会いの場にする。
- ✓ なつかしい未来ブランドショップも併設

（この図書館が陸前高田の未来にどんないいことを生みだすか？）

- ✓ 起業する子どもが増える
- ✓ “陸前高田社中”のように町のみんなの会社で収益を陸前高田のために活用する
- ✓ 高齢化社会・過疎化地域の先進モデルとして注目される
- ✓ 郷土芸能や祭りが伝承される
- ✓ 漬物や手工芸品販売でおしゃべりも増える
- ✓ いつも温かい人の目のある場所ができ、犯罪減少につながる
- ✓ テレビ離れが起きて、親子のコミュニケーションの時間が増える
- ✓ お年寄りも障がい者も小さな仕事に取り組める町になり納税者が増える
- ✓ おじいちゃんやおばあちゃんと子どもたちが立ち話をしている風景
- ✓ 図書館を中心に公園や宿泊施設、飲食店などまちがかたちづくられていく
- ✓ 図書館を通じてロハスに近いライフスタイルが根付きブームとなる
- ✓ ノーベル文学者にノミネートされる人が現れる
- ✓ 図書館司書という資格が必要なくなり、資格が見直される

- ✓ 若者が都心と陸前高田を行き来する（ふるさとが２つもてる）

２．陸前高田の良さを発信するツーリズム企画「かわいい子には旅をさせよ」

（どんな旅か？）

- ✓ 日本全国の沿岸部に住む子どもたちの社会見学のプログラム
- ✓ 山菜とり等、東京では体験できないことができる
- ✓ 被災地から学ぶ災害教育プログラム有
- ✓ 仮設住宅へのホームステイ
- ✓ ３泊４日からゆくゆくは長期化へ。30 泊 31 日キャンプ。いつきてもいつ帰っても良い旅
- ✓ 花畑、ドリームハウス、野菜づくり体験
- ✓ 金山めぐり、魚釣り、歴史を学ぶ旅
- ✓ かまどで火を興すなど、生きるすべを学ぶ旅
- ✓ 砂浜で泳ぐ
- ✓ 陸前高田の子どもが先生になれる旅
- ✓ おじいちゃんおばあちゃんと孫が一緒に高田に来るツアー
- ✓ 海外の子どもたちと交換留学
- ✓ 子どもたちに高田松原の植樹をやってもらう
- ✓ スタッフは５人くらいで回し、１回 30 人、小１から高３を対象とした旅を想定

（この旅が陸前高田の未来にどんないいことを生みだすか？）

- ✓ 陸前高田のファン作り。第二のふるさとは陸前高田となる。
- ✓ 訪れた人が地元に戻り、陸前高田大使として良さを広める。
- ✓ 大学生が引率して訪れるようになる。
- ✓ この活動の拠点となる施設は別の災害が起きたときに、緊急支援施設として機能する。
- ✓ 血縁ではない遠い縁が日本各地に生まれて、生涯に渡って付き合い続ける。
- ✓ お年寄りのサポートも不可欠なので、お年寄りも元気で活力に満ちた陸前高田になる
- ✓ 陸前高田に住む人が現れる
- ✓ 陸前高田の子どもたちと市外の子どもたちが同じ活動を通じて触れ合える
- ✓ 子どもと一緒に大人たちも高田に来て「人生の楽園」のような存在になる
- ✓ 陸前高田市の所得があがり、財政が潤う
- ✓ 子どもたちがお年寄りたちを好きになる
- ✓ 漁師や農協など一次産業従事者が増える
- ✓ 子どもたちの間での交流が広まり日本が変わる

３．気仙杉をつかった気仙大工による建物を建てる企画「けせん大工のモデルハウス」

（どんなモデルハウスか？）

- ✓ 復興住宅として古民家を再生した家
- ✓ 地元材で地元の人が簡単に建てられる“けせん杉ハウス”
- ✓ 100 年、200 年受け継がれる家
- ✓ 顔の見える古民家風の家
- ✓ 木それぞれの曲がりを活かした家
- ✓ 新月に伐採した木でつくる等、ストーリーのある家
- ✓ 都会の人やボランティアが宿泊できる宿機能もある家
- ✓ 釘を使わない家
- ✓ 気仙大工の技のお披露目スペースのある家
- ✓ 家の中身も自然エネルギー
- ✓ ○○さんが切った木ということを価値にした展開

（このモデルハウスが陸前高田の未来にどんないいことを生みだすか？）

- ✓ 「KESEN」が国際語になる
- ✓ 山が整備され、循環型山林経営につながる
- ✓ 外国人が泊まりたくなる
- ✓ シェアハウスが加速
- ✓ 木材自給率向上
- ✓ 地元の子どもたちが誇りを持つ
- ✓ 環境意識が高まる

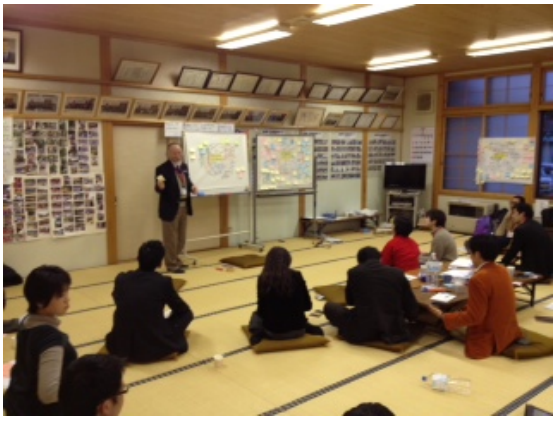
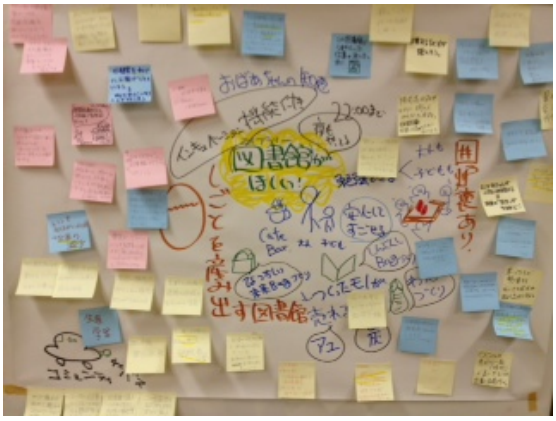
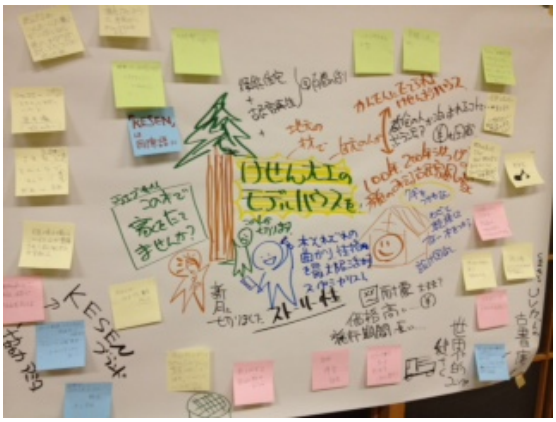
４．生活者が参加する、新しい生協モデル「地域商社」

（どんなモデルハウスか？）

（どんな商社か？）

- ✓ 地元の良いものの目利き機能を持つ
- ✓ 地域経済の循環促進
- ✓ 陸前高田のいいものを外に売り出すセールスマン機能あり
- ✓ 世界、日本全国をターゲットとする
- ✓ 地域で必要なものは共同購入で安く獲得できる
- ✓ 地方からも出資を受けてまわしていく
- ✓ 住民がみんなで株を持って運営していく
- ✓ 電力も扱う

- ✓　市長、副市長がセールスマンになって推進
- ✓　野菜やスローフードのセット販売を実施
- ✓　物々交換ができる場を設置する
- ✓

（この地域商社が陸前高田の未来にどんないいことを生みだすか？）

- ✓　新たな市場開拓が可能になる
- ✓　地産地消が促進される
- ✓　陸前高田から世界ブランドの誕生
- ✓　地域における商品開発が活発に進む
- ✓　いままでは陸前高田で見ることのできなかった商品を購入することが可能になる